

令和 8 年 5 月 20 日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

住職 三木徹生

## 虫供養法要ご案内

新緑が目に見鮮やかな、すがすがしい季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、下記の通り標記のご法要が勤修されます。私の“いのち”を見つめ直し、いただいた私の“いのち”に感謝申しあげましょう。仏法を聞くことは、私の問題です。聞法に、お寺へお越しくください。

- 1.と き 令和 8 年 7 月 11 日（土）午後 1 時から
- 2.おつとめ 正信念仏偈（草譜）～参詣者全員で唱えましょう～
- 3.法 話 長倉 伯博 師（鹿児島組 松元町 善福寺）

注意：マスク着用を推奨します。また、風邪・発熱症状がある方、その他感染の危険性が高い方は、参拝をご遠慮ください。

- ◇ “月のことば”を配布します。
- ◇ 法要前の掃除・準備を法要当日 7 月 11 日（土）8 時より行います。お手伝い頂ける方は、よろしくお願ひします。お聴聞させて頂くみんなで、ご法要を作りましょう。

### 予告「お盆前寺掃除」

- 対象：寺役員と願成閣加入者、初盆者、その他お手伝いできる方
- とき：**8 月 8 日（土）午前 8 時から**
- 内容：寺役員・初盆者・その他は“本堂・庭掃除”、願成閣加入者は“閣内掃除”  
☞ご無理のない範囲でご参加ください。
- 8 月 8 日「お盆前寺掃除」につきましては、個々には案内致しません。  
これをもって案内に代えさせて頂きますので、よろしくご了解ください。

## 伝道（大乘 2026.5）

### さつま開教 150 年 この秋に記念法要 怨親平等の心で新たな歩み 島津家 33 代当主が参拝

鹿児島教区と鹿児島別院は 10 月 26 日から 28 日、「さつま開教 150 年記念法要」を同別院でつとめる。1876（明治 9）年 9 月 5 日の「信教自由の令」によって、約 300 年間の念仏禁制が解かれたことを起点とする法要で、テーマは「光はここに 光はここから～いのち礼讃 そして念仏の新たな歩みへ」。誰もが光で照らされる浄土真宗のみ教えのもとに“怨親平等の心”で念仏者の新たな歩みを目指す。この思いを受け、27 日の記念法要と翌日のレセプションには、旧薩摩藩主として念仏禁制を定めた島津家の島津忠裕・第 33 代当主も参拝する。



（右から）井上従昭法要委員長、島津忠裕当主、吉川孝介輪番、正覺智成法要副委員長

鹿児島の念仏禁制は 1597（慶長 2）年、一向一揆の発生などを警戒する島津義弘によって定められたとされる。禁制は鹿児島県による「信教自由の令」によって解かれるまで約 300 年間継続。特に最後の約 40 年間に苛烈な弾圧があったとされ、その時代の「かくれ念仏」や「法難の歴史」が現代に伝わる。

同別院では法要に向け、記念事業として境内の整備を進める。鹿児島大学名誉教授で文化勲章受章の彫刻家・中村晋也氏が制作する「かくれ念仏記念モニュメント」の設置を核に、駐車場や参道などを整備する。

昨年 12 月には、法要に先駆け同別院の吉川孝介輪番、井上従昭法要委員長らが島津家に法要の案内状を届け、島津氏と対談を行った。

吉川輪番は「開教 150 年の節目を機縁として、同じ鹿児島の地にありながら直接的な交流が途絶えていた島津家との関係を回復し、念仏者の新たな歩みとともに、よりよい未来に取り組みたい」と提言。島津さんは「明治 30 年に大谷光瑞門主（第 22 代鏡如上人）が新門のおり、高祖父・島津忠義と面会された時に関係修復ができたと考えている」と述べ、禁制下の信仰に関する思いなどから途絶えさせざるを得なかった直接交流が、100 年以上の時を経て実現したことを喜んだ。

今後、同別院では、尚古集成館（島津家資料館）元館長による講演会なども実施。島津家別邸の仙巖園で開かれる歌会に吉川輪番が参加するなどより親交を深め、4 月にリリースした別院アプリなども活用しながら機運を高めるといふ。

吉川輪番は「念仏禁制の弾圧は知られているが、鏡如上人が和解のため島津家を訪問していたことは伝わっていない。この法要を機縁として、世界的な分断が獣延する中で、恨みを恨みで返さず双方が光で照らされる浄土真宗の教えが広まる機縁となれば」と話す。